



SunOS リファレンスマニュアル 5 : 標準、環境、マクロ

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 816-3993-10
2002 年 5 月

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L、HG-MincyoL-Sun、HG ゴシック B、および HG-GothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HG 平成明朝体 W3@X12 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *man pages section 5 : Standards, Environments, and Macros*

Part No: 816-0220-10

Revision A



020327@2851



目次

はじめに 5

SunOS リファレンスマニュアル 5: 標準、環境、マクロ 9

Intro(5) 10

environ(5) 11

iconv(5) 17

はじめに

概要

SunOS リファレンスマニュアルは、初めて SunOS を使用するユーザーやすでにある程度の知識を持っているユーザーのどちらでも対応できるように解説されています。このマニュアルを構成するマニュアルページは一般に参照マニュアルとして作られており、チュートリアルな要素は含んでいません。それぞれのコマンドを実行すると、どのような結果が得られるかについて、詳しく説明されています。なお、各マニュアルページの内容はオンラインでも参照することができます。

このマニュアルは、マニュアルページの内容によっていくつかのセクションに分かれています。各セクションについて以下に簡単に説明します。

- セクション 1 は、オペレーティングシステムで使えるコマンドを説明します。
- セクション 1M は、システム保守や管理用として主に使われるコマンドを説明します。
- セクション 2 は、すべてのシステムコールについて説明します。ほとんどのシステムコールに 1 つまたは複数のエラーがあります。エラーの場合、通常ありえない戻り値が返されます。
- セクション 3 は、さまざまなライブラリ中の関数について説明します。ただし、UNIX システムプリミティブを直接呼び出す関数については、セクション 2 で説明しています。
- セクション 5 は、文字セットテーブルなど他のセクションには該当しないものについて説明します。

以下に、このマニュアルの項目を表記されている順に説明します。ほとんどのマニュアルページが下記の項目からなる共通の書式で書かれていますが、必要でない項目については省略されています。たとえば、記述すべきバグがコマンドにない場合などは、「使用上の留意点」という項目はありません。各マニュアルページの詳細は各セクションの intro を、マニュアルページの一般的な情報については man(1) を参照してください。

名前	コマンドや関数の名称と概略が示されています。
形式	<p>コマンドや関数の構文が示されています。標準パスにコマンドやファイルが存在しない場合は、フルパス名が示されます。字体は、コマンド、オプションなどの定数にはボールド体 (bold) を、引数、パラメータ、置換文字などの変数にはイタリック体 (<i>Italic</i>) または <日本語訳> を使用しています。オプションと引数の順番は、アルファベット順です。特別な指定が必要な場合を除いて、1文字の引数、引数のついたオプションの順に書かれています。</p> <p>以下の文字がそれぞれの項目で使われています。</p> <p>[] このかっこに囲まれたオプションや引数は省略できます。このかっこが付いていない場合には、引数を必ず指定する必要があります。</p> <p>... 省略符号。前の引数に変数を付けたり、引数を複数指定したりできることを意味します (例: 'filename...')。</p> <p> 区切り文字 (セパレータ)。この文字で分割されている引数のうち1つだけを指定できます。</p> <p>{ } この大かっこに囲まれた複数のオプションや引数は省略できます。かっこ内を1組として扱います。</p>
プロトコル	この項が使われているのは、プロトコルが記述されているファイルを示すサブセクション 3R だけです。パス名は常にボールド体 (bold) で示されています。
機能説明	コマンドの機能とその動作について説明します。実行時の詳細を説明していますが、オプションの説明や使用例はここでは示されていません。対話形式のコマンド、サブコマンド、リクエスト、マクロ、関数などに関しては「使用法」で説明します。
IOCTL	セクション7だけに使用される項です。ioctl(2) システムコールへのパラメータは ioctl と呼ばれ、適切なパラメータを持つデバイスクラスのマニュアルページだけに記載されています。特定のデバイスに関する ioctl は、(そのデバイスのマニュアルページに) アルファベット順に記述されています。デバイスの特定のクラスに関する ioctl は、mtio(7I) のように io で終わる名前が付いているデバイスクラスのマニュアルページに記載されています。
オプション	各オプションがどのように実行されるかを説明しています。「形式」で示されている順に記述されています。オプションの引数はこの項目で説明され、必要な場合はデフォルト値を示します。
オペランド	コマンドのオペランドを一覧表示し、各オペランドがコマンドの動作にどのように影響を及ぼすかを説明しています。
出力	コマンドによって生成される出力 (標準出力、標準エラー、または出力ファイル) を説明しています。

戻り値	値を返す関数の場合、その値を示し、値が返される時の条件を説明しています。関数が 0 や -1 のような一定の値だけを返す場合は、値と説明の形で示され、その他の場合は各関数の戻り値について簡単に説明しています。void として宣言された関数はこの項では扱いません。
エラー	失敗の場合、ほとんどの関数はその理由を示すエラーコードを errno 変数の中に設定します。この項ではエラーコードをアルファベット順に記述し、各エラーの原因となる条件について説明します。同じエラーの原因となる条件が複数ある場合は、エラーコードの下にそれぞれの条件を別々のパラグラフで説明しています。
使用法	この項では、使用する際の手がかりとなる説明が示されています。特定の決まりや機能、詳しい説明の必要なコマンドなどが示されています。組み込み機能については、以下の小項目で説明しています。
	コマンド 修飾子 変数 式 入力文法
使用例	コマンドや関数の使用例または使用方法を説明しています。できるだけ実際に入力するコマンド行とスクリーンに表示される内容を例にしています。例の中には必ず example% のプロンプトが出てきます。スーパーユーザーの場合は example# のプロンプトになります。例では、その説明、変数置換の方法、戻り値が示され、それらのほとんどが「形式」、「機能説明」、「オプション」、「使用法」の項からの実例となっています。
環境	コマンドや関数が影響を与える環境変数を記述し、その影響について簡単に説明しています。
終了ステータス	コマンドが呼び出しプログラムまたはシェルに返す値と、その状態を説明しています。通常、正常終了には 0 が返され、0 以外の値はそれぞれのエラー状態を示します。
ファイル	マニュアルページが参照するファイル、関連ファイル、およびコマンドが作成または必要とするファイルを示し、各ファイルについて簡単に説明しています。
属性	属性タイプとその対応する値を定義することにより、コマンド、ユーティリティ、およびデバイスドライバの特性を一覧しています。詳細は attributes(5) を参照してください。
関連項目	関連するマニュアルページ、当社のマニュアル、および一般の出版物が示されています。

診断	エラーの発生状況と診断メッセージが示されています。メッセージはボールド体 (bold) で、変数はイタリック体 (Italic) または <日本語訳> で示されており、C ロケール時の表示形式です。
警告	作業に支障を与えるような現象について説明しています。診断メッセージではありません。
注意事項	それぞれの項に該当しない追加情報が示されています。マニュアルページの内容とは直接関係のない事柄も参照用に扱っています。ここでは重要な情報については説明していません。
使用上の留意点	すでに発見されているバグについて説明しています。可能な場合は対処法も示しています。

SunOS リファレンスマニュアル 5: 標準、環境、マクロ

Intro(5)

名前	Intro, intro – その他の序章	
機能説明	このセクションでは、次の項目について説明します。	
	標準	POSIX (IEEE) 標準と X/Open 仕様について standards のマニュアルページで記述します。
	環境	ユーザー環境 (environ)、言語や文化規約によるユーザー環境のサブセット (locale)、大規模ファイルのコンパイル環境 (lfcompile)、変換のコンパイル環境 (lfcompile64) について記述します。
	マクロ	参照用マニュアルページ (man と mansun) を書式化するマクロを、その他のテキストを書式化するマクロ (me、mm、ms) と同じように記述します。
	文字	文字セット (ascii、charmap、eqnchar、iconv) のテーブル、ファイルの書式化指定 (formats)、ファイル名のパターンマッチング (fnmatch)、正規表現 (regex と regexp) について記述します。
	FNS	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (fns、fns_initial_context、fns_policies、fns_references) に関する項目について記述します。
一覧	名前	説明
	Intro(5)	その他の序章
	environ(5)	ユーザー環境
	iconv(5)	コードセット変換テーブル

名前	environ – ユーザー環境
機能説明	<p>プロセスの実行を開始すると、exec 関数のファミリの中の 1 つが環境と呼ばれる文字列の配列を用意します (exec(2) を参照)。規約上、これらの文字列は <i>variable</i> (変数) = <i>value</i> (値) という形式をとります (たとえば、PATH=/sbin:/usr/sbin)。この環境変数により、プログラムはプログラムの環境に関する情報を利用できるようになります。</p> <p>環境中に名前を設定するには、sh(1) における <i>name=value</i> 引数と export コマンドを使うか、あるいは exec(2) 関数のうちの 1 つを使います。.<i>profile</i> ファイル内でエクスポートされる MAIL、PS1、PS2、IFS などのシェル変数と環境変数との間で矛盾を生じさせるのは避けてください。詳細は profile(4) を参照してください。</p> <p>アプリケーションが利用できる環境変数を以下に示します。これらの変数は、実行環境において設定されていることが期待されています。</p> <p>HOME ユーザーのログインディレクトリ名。パスワードファイル (passwd(4) を参照) に基づいて login(1) が設定します。</p> <p>LANG 国際化情報を指定するのに用いる文字列。ユーザーはこの情報を利用して、さまざまな国の慣習に従って作業を進めることができます。setlocale(3C) 関数の引数 locale に "" を指定して呼び出すと、この関数は環境変数 LANG を調べます。特定のカテゴリに対する環境変数が設定されていない、あるいは空文字列に設定されている場合は、LANG がデフォルト時のロケールとして使用されます。ただし LC_ALL が空文字列でない正当な値に設定されていれば、変数 LANG や他の LC_* 変数の代わりにその値が使用されます。たとえば、以下のように呼び出されたとします。</p> <pre>setlocale(LC_CTYPE, "")</pre> <p>setlocale(LC_CTYPE, "")、setlocale() は、まず環境変数 LC_CTYPE を調べて、それが設定されていて空文字列でないことを確認します。LC_CTYPE が未設定または空文字列の場合は、setlocale() は次に環境変数 LANG を調べて、それが設定されていて空文字列でないことを確認します。LANG と LC_CTYPE がともに未設定または空文字列の場合は、デフォルト値の C ロケールを用いて LC_CTYPE カテゴリを設定します。</p> <p>ほとんどのコマンドは、他の処理を行う前に以下を呼び出します。</p> <pre>setlocale(LC_ALL, "")</pre> <p>この関数を用いて適切な環境変数を設定することにより、コマンドをさまざまな国の慣習に従って使用できるようになります。</p> <p>以下に示す環境変数が各カテゴリの setlocale(3C) と対応しています。</p> <p>LC_ALL 空文字列でない正当な値に設定されていれば、LANG およびすべての LC_* 変数の値に代わって使用されます。</p>

LC_COLLATE

使用する文字照合順序を指定します。このカテゴリにあてはまる情報は、`localedef(1)` コマンドによって作成されるデータベース内に格納されています。この環境変数は `strcoll(3C)` および `strxfrm(3C)` に影響を及ぼします。

LC_CTYPE

文字分類、文字変換および複数バイト文字の幅を指定します。LC_CTYPE が正当な値に設定されていると、呼び出し側のユーティリティは、当該ロケールに合った文字を含んでいるテキストやファイル名を表示したり処理したりできます。文字の具体例としては、各文字の幅が1から3バイトの拡張 UNIX コード (EUC) 文字、およびカラム幅が1から3の EUC 文字です。デフォルトの C ロケールは、7ビットの ASCII 文字セットに対応していて、ISO 8859-1 の文字だけが使用できます。このカテゴリにあてはまる情報は、`localedef()` コマンドによって作成されるデータベース内に格納されています。`ctype(3C)`、`mblen(3C)`、および他の多くのコマンド (たとえば、`cat(1)`、`ed(1)`、`ls(1)`、`vi(1)`) がこの環境変数を使用します。

LC_MESSAGES

使用するメッセージデータベースの言語を指定します。たとえば、アプリケーションは、フランス語用のメッセージデータベースとドイツ語用のメッセージデータベースを使い分けることができます。メッセージデータベースは、`mkmsgs(1)` コマンドで作成します。`exstr(1)`、`gettext(1)`、`srchtxt(1)`、`gettext(3C)`、`gettext(3C)` がこの環境変数を使用します。

LC_MONETARY

特定のロケールで使用する貨幣記号および区切り記号を指定します。このカテゴリにあてはまる情報は、`localedef(1)` コマンドによって作成されるデータベース内に格納されています。`localeconv(3C)` がこの環境変数を使用します。

LC_NUMERIC

小数点および千の位の区切り記号を指定します。このカテゴリにあてはまる情報は、`localedef()` コマンドによって作成されるデータベース内に格納されています。デフォルト値の C ロケールは、小数点にピリオド (.) を指定し、千の位の区切り記号は指定しません。`localeconv(3C)`、`printf(3C)`、`strtod(3C)` がこの環境変数を使用します。

LC_TIME

日付と時刻の書式を指定します。このカテゴリにあてはまる情報は、`localedef()` で指定されるデータベース内に格納されています。デフォルト値の C ロケールは、アメリカ合衆国の日付と時刻の書式に対応しています。多くのコマンドおよび関数 (たとえば、`at(1)`、`calendar(1)`、`date(1)`、`strftime(3C)`、`getdate(3C)`) がこの環境変数を使用します。

- MSGVERB** stderr にメッセージを表示するとき、`fmtmsg` がどの標準書式メッセージ構成要素を使用するかを制御します (`fmtmsg(1)` および `fmtmsg(3C)` を参照)。
- NETPATH** コロンで区切られたネットワーク識別子のリストです。ネットワーク識別子とは、システムの「ネットワーク選択」構成要素が、アプリケーション固有のデフォルトのネットワーク検索パスを提供するために使用する文字列です。ネットワーク識別子は、NULL 以外の文字からなり、長さは 1 以上である必要があります。最大長は制限されていません。通常は、システム管理者がネットワーク識別子を選択します。ネットワーク識別子は、`/etc/netconfig` ファイルのすべての記述項の最初のフィールドでもあります。したがって `NETPATH` は、`/etc/netconfig` ファイルへのリンクおよびそのファイルのネットワーク記述項に入っているネットワークに関する情報を提供します。`/etc/netconfig` は、システム管理者によって維持されます。`getnetpath(3NSL)` で説明したライブラリルーチンが、`NETPATH` 環境変数にアクセスします。
- NLSPATH** メッセージカタログを見つけるために `catopen(3C)` と `gettext(3C)` が使用する、一連のテンプレートを指定します。各テンプレートは、オプションの接頭辞、1 つまたは複数の置換フィールド、ファイル名、およびオプションの接尾辞からなります。次に例を示します。

```
NLSPATH="/system/nlslib/%N.cat"
```

この例では、`catopen()` がすべてのメッセージカタログをディレクトリ `/system/nlslib` から見つける必要があることを定義します。このディレクトリのカテゴリ名は、`catopen()` に指定された `name` パラメータの `%N` に接尾辞の `.cat` がついています。

置換フィールドは、後ろに単一文字のキーワードがついた `%` 記号からなります。現在定義されているキーワードを以下に示します。

<code>%N</code>	<code>catopen()</code> に指定された <code>name</code> パラメータの値
<code>%L</code>	<code>LANG</code> または <code>LC_MESSAGES</code> の値
<code>%l</code>	<code>LANG</code> または <code>LC_MESSAGES</code> の言語要素
<code>%t</code>	<code>LANG</code> または <code>LC_MESSAGES</code> の地域要素
<code>%c</code>	<code>LANG</code> または <code>LC_MESSAGES</code> のコードセット要素
<code>%%</code>	単一の <code>%</code> 文字

現在定義されていない値を指定した場合は、空の文字列に置換されます。分離文字の下線文字 (`_`) およびピリオド (`.`) は、`%t` および `%c` の各置換フィールドには入っていません。

environ(5)

NLSPATH で定義されるテンプレートは、コロン (:) で区切られます。先頭のコロンまたは隣接する 2 つのコロン (::) は、%N と同じ意味です。次に例を示します。

```
NLSPATH=":%N.cat:/nlslib/%L/%N.cat"
```

この例では、要求されたメッセージカタログを *name*、*name.cat*、および */nlslib/\$LANG/name.cat* から見つけるよう *catopen()* に指示しています。 *gettext()* の場合、%N には自動的にメッセージが入ります。

NLSPATH が設定されていないか NULL に設定されている場合、*catopen()* と *gettext()* は *setlocale(3C)* を呼び出します。 *setlocale(3C)* は LANG と LC_* 変数を調べてメッセージカタログの場所を探します。

通常、NLSPATH はシステム全体 (*/etc/profile* 中) に設定されるので、プログラムもユーザーもメッセージカタログの場所や命名規約を意識する必要はありません。

PATH	sh(1)、time(1)、nice(1)、nohup(1) などのユーティリティが、不完全なパス名しかわからないファイルを探すときに使用する一連のディレクトリ接頭辞です。複数の接頭辞はコロン (:) で区切られます。login(1) は PATH=/usr/bin を設定します。詳細は、sh(1) を参照してください。
SEV _LEVEL	重大度レベルを定義し、文字列をその重大度レベルと対応させ、標準書式エラーメッセージで出力します (addseverity(3C)、fmtmsg(1)、fmtmsg(3C) を参照)。
TERM	出力を行う端末の種類です。vi(1) などのコマンドがこの情報を使用して、指定された端末の特殊な機能を利用できます。
TZ	時間帯の情報です。この環境変数の内容は、ctime(3C)、localtime(3C)、strftime(3C)、mktime(3C) の各関数がデフォルトの時間帯を変更するのに使用します。TZ の形式が以下に述べるものと異なる場合、/usr/share/lib/zoneinfo/ に対応する時間帯データベースへのパスを表します。このとき、最初の文字がコロン (:) の場合は無視されます。TZ の通常形式は次のとおりです。

```
std offset [ dst [ offset ], [ start [ /time ], end [ /time ] ] ]
```

std と *dst* 3 個以上のバイトは、標準 (*std*) 時間帯および夏期 (*dst*) 時間帯を指定します。*std* は必ず指定します。*dst* が指定されていない場合、このロケールでは夏期時間帯は使用されません。移植可能な文字セットのうち、大文字と小文字は問題なく使用できます。先頭のコロン (:) または数字、コンマ (,)、マイナス記号 (-)、プラス記号 (+)、およびヌル文字以外のグラフィック文字は使用できますが、その意味は定義されていません。

offset

協定世界時に合わせるために、ローカル時間に追加すべき値を示します。*offset* の形式は以下のとおりです。

hh [: *mm* [: *ss*]]

分 (*mm*) および秒 (*ss*) はオプションです。時間 (*hh*) は必ず指定し、単一の数字で指定することもできます。*std* の後では必ず *offset* を指定しなければなりません。*dst* の後に *offset* を指定しないと、夏期時間は標準時間の 1 時間先と見なされます。1 つまたは複数の数字による指定が可能です。この値はつねに 10 進数として解釈されます。時間は 0 と 24 の間の値で、分 (および秒) を指定する場合は 0 と 59 の間の値で指定しなければなりません。この範囲外の値を指定した場合の動作は予測できません。- を値の前につけると、時間帯はグリニッジ子午線の東です。それ以外の場合は、グリニッジ子午線の西になります (オプションの + 記号で示すこともできます)。

start/time, end/time

夏期時間帯に変更する日時と、その時間帯から標準時間帯に戻す日時を示します。*start/time* は、標準時間から夏期時間に変更する日時を示し、*end/time* は、標準時間に戻る日時を示します。各 *time* フィールドは、変更を行う時間 (現在のローカル時間) を示します。

start および *end* は、以下のいずれかの形式をとります。

Jn ユリウス日 *n* ($1 \leq n \leq 365$)。うるう年は考えません。つまり毎年 2 月 28 日は 59 で、3 月 1 日は 60 となります。この書式では 2 月 29 日を扱えません。

n 0 から始まるユリウス日 *n* ($1 \leq n \leq 365$)。2 月 29 日を扱えるように、うるう年を考慮した書式です。

Mm.n.d *m* 月 *n* 週の *d* 番目 ($0 \leq d \leq 6$) の日 ($1 \leq n \leq 5, 1 \leq m \leq 12$)。 *n* が 5 の場合、「*m* 月の最後の *d* 番目の日」になります (最後の *d* 番目

environ(5)

の日は、月の第 4 週または第 5 週にきます)。 *n=1* は、その月の最初の *d* 番目の日が来る週を意味します。 *d=0* は日曜日を意味します。

これらのオプションのフィールドがない場合は、システム固有のデフォルト値を使用して *start* および *end* を指定します。

time は *offset* と同じ書式を用います。ただし、*time* では先行符号 (- または +) を付けることはできません。*time* フィールドがない場合のデフォルト値は 02:00:00 です。

関連項目

cat(1), date(1), ed(1), fmtmsg(1), localedef(1), login(1), ls(1), mkmsgs(1), nice(1), nohup(1), sh(1), sort(1), time(1), vi(1), exec(2), addseverity(3C), catopen(3C), ctime(3C), ctype(3C), fmtmsg(3C), getdate(3C), getnetpath(3NSL), gettext(3C), gettxt(3C), localeconv(3C), mblen(3C), mktime(3C), printf(3C), setlocale(3C), strcoll(3C), strftime(3C), strtod(3C), strxfrm(3C), TIMEZONE(4), netconfig(4), passwd(4), profile(4)

名前 iconv - コードセット変換テーブル
 機能説明 以下に示すようなコードセット変換が可能です。

サポートしているコードセット変換

コード	シンボル	出力側コード	シンボル	出力言語
ISO 646	646	ISO 8859-1	8859	US ASCII
ISO 646de	646de	ISO 8859-1	8859	ドイツ語
ISO 646da	646da	ISO 8859-1	8859	デンマーク語
ISO 646en	646en	ISO 8859-1	8859	英語 ASCII
ISO 646es	646es	ISO 8859-1	8859	スペイン語
ISO 646fr	646fr	ISO 8859-1	8859	フランス語
ISO 646it	646it	ISO 8859-1	8859	イタリア語
ISO 646sv	646sv	ISO 8859-1	8859	スウェーデン語
ISO 8859-1	8859	ISO 646	646	7 ビット ASCII
ISO 8859-1	8859	ISO 646de	646de	ドイツ語
ISO 8859-1	8859	ISO 646da	646da	デンマーク語
ISO 8859-1	8859	ISO 646en	646en	英語 ASCII
ISO 8859-1	8859	ISO 646es	646es	スペイン語
ISO 8859-1	8859	ISO 646fr	646fr	フランス語
ISO 8859-1	8859	ISO 646it	646it	イタリア語
ISO 8859-1	8859	ISO 646sv	646sv	スウェーデン語
ISO 8859-16	iso16	ISO 8859-2	iso2	ISO ラテン 2
ISO 8859-2	iso2	ISO 8859-16	iso16	ISO ラテン 10
ISO 8859-16	iso16	IBM 850	ibm850	IBM 850 コードページ
ISO 8859-16	iso16	IBM 870	ibm870	IBM 870 コードページ
ISO 8859-2	iso2	MS 1250	win2	Windows ラテン 2
ISO 8859-2	iso2	MS 852	dos2	MS-DOS ラテン 2
ISO 8859-2	iso2	Mazovia	maz	Mazovia
IBM 850	ibm850	ISO 8859-16	iso16	ISO ラテン 10
IBM 870	ibm870	ISO 8859-16	iso16	ISO ラテン 10
MS 1250	win2	DHN	dhn	Dom Handlowy Nauki
MS 852	dos2	ISO 8859-2	iso2	ISO ラテン 2
MS 852	dos2	MS 1250	win2	Windows ラテン 2
MS 852	dos2	Mazovia	maz	Mazovia
MS 852	dos2	DHN	dhn	Dom Handlowy Nauki
Mazovia	maz	ISO 8859-2	iso2	ISO ラテン 2
Mazovia	maz	MS 1250	win2	Windows ラテン 2
Mazovia	maz	MS 852	dos2	MS-DOS ラテン 2
Mazovia	maz	DHN	dhn	Dom Handlowy Nauki
DHN	dhn	ISO 8859-2	iso2	ISO ラテン 2
DHN	dhn	MS 1250	win2	Windows ラテン 2
DHN	dhn	MS 852	dos2	MS-DOS ラテン 2
DHN	dhn	Mazovia	maz	Mazovia
ISO 8859-5	iso5	KOI8-R	koi8	KOI8-R
ISO 8859-5	iso5	PC Cyrillic	alt	代替 PC Cyrillic
ISO 8859-5	iso5	MS 1251	win5	Windows Cyrillic
ISO 8859-5	iso5	Mac Cyrillic	mac	Macintosh Cyrillic
KOI8-R	koi8	ISO 8859-5	iso5	ISO 8859-5 Cyrillic
KOI8-R	koi8	PC Cyrillic	alt	代替 PC Cyrillic
KOI8-R	koi8	MS 1251	win5	Windows Cyrillic
KOI8-R	koi8	Mac Cyrillic	mac	Macintosh Cyrillic
PC Cyrillic	alt	ISO 8859-5	iso5	ISO 8859-5 Cyrillic
PC Cyrillic	alt	KOI8-R	koi8	KOI8-R
PC Cyrillic	alt	MS 1251	win5	Windows Cyrillic

iconv(5)

```

PC Cyrillic    alt    Mac Cyrillic  mac    Macintosh Cyrillic
MS 1251       win5   ISO 8859-5    iso5   ISO 8859-5 Cyrillic
MS 1251       win5   KOI8-R        koi8   KOI8-R
MS 1251       win5   PC Cyrillic   alt    代替 PC Cyrillic
MS 1251       win5   Mac Cyrillic  mac    Macintosh Cyrillic
Mac Cyrillic  mac    ISO 8859-5    iso5   ISO 8859-5 Cyrillic
Mac Cyrillic  mac    KOI8-R        koi8   KOI8-R
Mac Cyrillic  mac    PC Cyrillic   alt    代替 PC Cyrillic
Mac Cyrillic  mac    MS 1251       win5   Windows Cyrillic
    
```

コード変換 変換処理は、次の「コード変換の索引」に記述された マニュアルページに含まれる表に従って行われます。

コード変換の索引		
コード	出力側コード	参照マニュアルページ
ISO 646	ISO 8859-1	iconv_646 (5)
ISO 646de	ISO 8859-1	
ISO 646da	ISO 8859-1	
ISO 646en	ISO 8859-1	
ISO 646es	ISO 8859-1	
ISO 646fr	ISO 8859-1	
ISO 646it	ISO 8859-1	
ISO 646sv	ISO 8859-1	
ISO 8859-1	ISO 646	iconv_8859-1 (5)
ISO 8859-1	ISO 646de	
ISO 8859-1	ISO 646da	
ISO 8859-1	ISO 646en	
ISO 8859-1	ISO 646es	
ISO 8859-1	ISO 646fr	
ISO 8859-1	ISO 646it	
ISO 8859-1	ISO 646sv	
ISO 8859-2	MS 1250	iconv_8859-2 (5)
ISO 8859-2	MS 852	
ISO 8859-2	Mazovia	
ISO 8859-2	DHN	

コード変換の索引		
コード	出力側コード	参照マニュアルページ
MS 1250	ISO 8859-2	iconv_1250 (5)
MS 1250	MS 852	
MS 1250	Mazovia	
MS 1250	DHN	

コード変換の索引		
コード	出力側コード	参照マニュアルページ
MS 852	ISO 8859-2	iconv_852 (5)
MS 852	MS 1250	
MS 852	Mazovia	
MS 852	DHN	
Mazovia	ISO 8859-2	iconv_maz (5)
Mazovia	MS 1250	
Mazovia	MS 852	
Mazovia	DHN	
DHN	ISO 8859-2	iconv_dhn (5)
DHN	MS 1250	
DHN	MS 852	
DHN	Mazovia	
ISO 8859-5	KOI8-R	iconv_8859-5 (5)
ISO 8859-5	PC Cyrillic	
ISO 8859-5	MS 1251	
ISO 8859-5	Mac Cyrillic	
KOI8-R	ISO 8859-5	iconv_koi8-r (5)
KOI8-R	PC Cyrillic	
KOI8-R	MS 1251	
KOI8-R	Mac Cyrillic	
PC Cyrillic	ISO 8859-5	iconv_pc_cyr (5)

iconv(5)

コード変換の索引		
コード	出力側コード	参照マニュアルページ
PC Cyrillic	KOI8-R	
PC Cyrillic	MS 1251	
PC Cyrillic	Mac Cyrillic	

コード変換の索引		
コード	出力側コード	参照マニュアルページ
MS 1251	ISO 8859-5	iconv_1251 (5)
MS 1251	KOI8-R	
MS 1251	PC Cyrillic	
MS 1251	Mac Cyrillic	
Mac Cyrillic	ISO 8859-5	iconv_mac_cyr (5)
Mac Cyrillic	KOI8-R	
Mac Cyrillic	PC Cyrillic	
Mac Cyrillic	MS 1251	

ファイル

/usr/lib/iconv/*.so
変換モジュール

/usr/lib/iconv/*.t
変換テーブル

/usr/lib/iconv/geniconvtbl/binarytables/*.bt
バイナリ形式の変換テーブル

/usr/lib/iconv/iconv_data
変換テーブルがサポートしている変換のリスト

関連項目

iconv(1), iconv(3C), iconv_1250(5), iconv_1251(5), iconv_646(5),
iconv_852(5), iconv_8859-1(5), iconv_8859-2(5), iconv_8859-5(5),
iconv_dhn(5), iconv_koi8-r(5), iconv_mac_cyr(5), iconv_maz(5),
iconv_pc_cyr(5), iconv_unicode(5)